

特集「UNIX」の編集にあたって

石畑 清† 小川 貴英††

UNIX は、1969 年ごろから Bell 研究所で開発されたオペレーティングシステムである。当初は部内だけで使われていたが、次第に利用者の範囲を広げてきた。特に、最近の普及ぶりにはめざましいものがある。いまや、マイクロコンピュータからスーパーコンピュータまであらゆる階層の計算機で UNIX が優えるようになっている。オペレーティングシステムの一種の標準の地位を占めるにいたったと言えよう。

UNIX の普及の勢いは、当面衰えそうもない。近い将来、より多くのユーザ、プログラマが UNIX を使うようになるのは確実だと思われる。このような状況を踏まえて、本特集では UNIX の歴史、特徴的な機能、最近の動向などを広く紹介することを目標とした。

本特集は9編からなる。第1編(石田)では、UNIX のこれまでの歴史や最近の動向を概観する。機種ごとに仕様が違うような事態を避けるための UNIX の標準化の動きについても触れる。

2~5 の4編では、UNIX の特徴的な機能を紹介する。UNIX が広く使われるにいたった理由は、ユーザインタフェースのよさや、強力な機能を持つプログラム群にあると考えられる。その具体的な内容をこれら4編に求めることができよう。まず、第2編(斎藤)では、UNIX の特徴や設計思想を概観する。第3編(橋爪)では、コマンド通訳系 Shell について解説する。Shell は、UNIX のユーザインタフェースの要となるプログラムであり、さまざまな機能を持っている。これらの機能やその背景となる設計思想について

述べる。第4編(岸田、栗原)ではプログラミング環境としてみた場合の UNIX について解説する。プログラミングを支援するための豊富なユーティリティプログラム類が紹介される。第5編(長谷部)では UNIX の文書処理機能について述べる。このなかには、単なる清書機能だけでなく、図表や数式を扱うシステム、文章の推敲を援助するプログラムなどが含まれる。

6~8 の3編では、UNIX に関して最近よく話題となることがらを扱っている。第6編(村井)では UNIX のネットワーク機能について述べる。メッセージやニュースを交換するだけのシステムから、複数の計算機を統合して扱う分散オペレーティングシステムまでの話題が含まれる。第7編(小野)では UNIX の日本語化について述べる。UNIX の思想に沿った形で日本語を扱えるようにするための試みが紹介される。第8編(多田)では小型計算機用の UNIX について述べる。マイクロコンピュータ用の UNIX にしばしばみられる、大型機とは違った問題点について議論する。

最後に第9編(木村)は、UNIX を批判的な目で眺めることを主眼とする。UNIX は優秀なシステムであるが、時代的な背景に基づく限界や欠点も持っている。UNIX を冷静に批判する態度を失わないために、特に特集の最後にこの記事を置いた。

本特集が読者の UNIX に関する知識を深めるための助けとなれば幸いである。各記事の執筆者、査読者に謝意を表したい。

(昭和61年11月14日)

† 東京大学理学部情報科学科
†† 津田塾大学理学部数学科